



「わかってだよ」

北九州市立若園小学校 校長 長 畑 潤

学校教育目標

「一人一人が生き生きと輝き、知・徳・体の調和のとれた自律した児童の育成」

㊦・・・わになって、㊦・・・かしこく

㊧・・・つよい心で ㊧・・・こん気強く

+1・・・楽しい学校をつくろう!!

12月のめあて 1年のほこりをはらって新年を迎えよう



12月を「師走(しわす)」と言います。「師馳せ月(しはせづき)」から変化したもので「師」とは「僧」のことであり、「師匠の僧が東西を馳せる月」と解釈するものが最も有力な説だと言われています。また、「師」とは「教師」のことで「学校の先生も忙しく走り回る月」という説もあるようです。

長い2学期もあと3週間を残すだけとなりました。朝夕の寒さが厳しくなってきましたので、健康管理にはいっそうご留意いただきたいと思います。

さて、学校では、実り多い2学期のまとめに入っています。子どもたち一人一人に成長の価値を伝え、今学期をしめくくりたいと考えています。年末年始を控え、ご家庭でもお忙しい時期を迎えることと思います。落ち着いた中で一年を振り返り、新たな目標を立てさせたいものです。



12月4日～12月10日は人権週間です

—がんばったことに「自信」をもち、自分と相手を大切に思う心を—

学校では、学習時間をはじめ学校生活のあらゆる場面で、人権意識の高揚を図る指導を行っています。若園小学校も、さまざまな個性をもつ子どもたちの集団です。ですから子どもたちは、将来社会において「自他の人権を互いに尊重しあう」ことを、学校生活という経験を通して学んでいます。思いやりをもつこと、きまりを守ることもそのひとつです。

12月は2学期のまとめの時期です。「目標としてきた力がついたか」「思いやりの心が育っているか」など、子どもたちの姿をよく見つめ、成長したところをほめ、もう少しのところは励まし、さらに確かな力と心を育てていきたいものです。

子どもの心を育て、力を伸ばすために大切なことは「自信」をつけてやることです。子どもたち一人一人には、頑張ったことやできるようになったことがそれぞれあります。子どもの姿をよく見て「よさ」をほめて認めることで「自信」につなげていきたいものです。特に、継続して取り組み、習慣化できていることは、大いにほめてあげたいものです。「自信」は次への意欲をもつことはもちろん、さらなる力の発揮にもつながります。そして、自分自身を大切にすることにつながります。自分自身を大切に思う気持ちが、相手に対する思いやりの心につながっていきます。

今後も、個に応じた指導・支援を行いながら、学級などの集団において一人一人の子ども大切さを互いに認め合えるような指導を継続していきたいと考えています。ご家庭での働きかけも大切です。ご協力をお願いします。

わかっての「か」かしこい子
本校では、本年度も算数科をテーマに共同研究を行いました。研究主題は「子どもたちの主体的な学びから、数学的な思考力表現力を高める算数科学習指導」です。
四十五分の授業の中に「つかむ」「自分で考える」「学び合う」「活用する」「振り返る」の学習過程を位置づけ、自分の考えをノートに「書く」活動を大切にすることで自分の考えを明確にし、自信をもって友達と交流する活動につなげていきました。
ご家庭でもお子さんのノートをご覧になりながら、話題にしていただきたいと思います。



交流が深まった「5年生球技大会」

27日(月)に、北方小学校の体育館で、5年生の交流球技大会がありました。朝休みや体育の時間に、パスやドリブル、シュートなどの個人技能に加え、チームで試合に臨むための練習をくり返し行って来ました。企救中学校で一緒になる子ども同士バスケットボールを通してとてもよい交流ができました。



【シュートで盛り上がる子ども達】



【互いのよい所を発表する子ども達】